

No.	項目	パブリックコメント公表時の素案	出された御意見の概要	(変更後) 最新素案
1	P4 3-6行	本計画は、2007(平成19)年度から2016(平成28)年度までの10年間の第1次期間とし、2012(平成24)年度からは【後期計画】として、取り組みを進めてきました。その後、2013(平成25)年度に「健康日本21(第2次)」、2014(平成26)年度に「健康おきなわ21(第2次)」に基づき健康づくりが展開されています。	計画策定の趣旨 ~簡潔に読みやすく。市が主体的になる文言で(修正案)。 本計画は、 <u>第1次の10年間の計画をスタートさせました。その「後期計画」においては、国の「健康日本21(第2次)」「(2013(平成25))年度」と県の「健康おきなわ21(第2次)」「(2014(平成26)年度)との整合を図りながら健康づくり施策を展開しています。</u> 本市…。	本計画は、2007年(平成19)年度から、第1次の10年間の計画をスタートさせました。2012(平成24)年度からの「後期計画」においては、国の「健康日本21(第2次)」と県の「健康おきなわ21(第2次)」との整合性を図りながら、健康づくり施策を展開しています。ライフステージごとの健康課題を踏まえながら、妊娠期を含めできるだけ早い段階からの健康的な生活習慣の確立による生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、地域のつながりを含む健康を支えるための社会環境づくりなど、市民の健康づくりを支援していくことを目指しています。
2	P4. 13-18行	本計画は、「第2次うるま市総合計画」で分野横断施策として位置づけられた「健康づくり」を展開する上での具体的な方策を定めるものであり、各種関連計画と整合性を図るものとします。また、健康増進法に基づく健康増進計画及び食育基本法に基づく食育推進計画、母子保健の国民運動計画である健やか親子21の性格を併せ持つ計画とします。	計画の位置付け~簡潔に、読みやすく(修正案)。 本計画は、「第2次うるま市総合計画」の中で <u>市民の健康づくりを推進する分野横断施策として位置づけられており、各種関連計画との整合性が図られた、健康づくりに関する具体的な方策を定めています。</u> また、「健康増進計画」(健康増進法)及び「食育推進計画」(食育基本法)、「健やか親子21」(母子保健16の国民運動計画)を包含した計画です。	本計画は、「第2次うるま市総合計画」の中で市民の健康づくりを推進する分野横断施策として位置づけられており、各種関連計画との整合性が図られた、健康づくりに関する具体的な方策を定めています。また、「健康増進計画」(健康増進法)及び「食育推進計画」(食育基本法)、「健やか親子21」(母子保健計画策定指針/国民運動計画「健やか親子21」)を包含した計画です。
3	P5. 9-11行	(2)行政だけでなく、個人はもちろん家庭、地域、学校、職場など誰もが主体的に取り組むことができる健康活動を関係機関や関係団体が支援していくヘルスプロモーションの視点で取り組みを進めます。	4. 第2次健康うるま21の特徴 ~句読点を！長く続くとわかりづらい。 (2)行政だけでなく、個人はもちろん、家庭、地域、学校、職場など、誰もが主体的に取り組むことができる健康活動を、関係機関や関係団体が支援していくというヘルスプロモーションの視点で取り組みを進めます。	行政だけでなく個人はもちろん、家庭・地域・学校・職場など、誰もが主体的に取り組むことができる健康活動を、関係機関や関係団体が支援していくというヘルスプロモーションの視点で取り組みを進めます。
4	P6. 2-3行	本計画の推進にあたっては、計画の基本理念やめざす姿の実現に向けて、次に挙げる体制に基づきながら推進して行きます。	5. 計画の推進体制 本計画の推進にあたっては、計画の基本理念やめざす姿の実現に向けて、次に挙げる体制に基づき推進します。	5. 計画の推進体制 本計画の推進にあたっては、計画の基本理念やめざす姿の実現に向けて、次に挙げる体制に基づき推進します。
5	P6. 5-8行	(1)うるま市健康づくり推進協議会本部会「うるま市健康づくり推進協議会本部会」において、計画進捗状況報告などをもとに取り組みを検証し、健康づくりの推進に関する指導・助言を行います。また同協議会で検討した内容を市民へ情報開示いたします。	(1)うるま市健康づくり推進協議会本部会「うるま市健康づくり推進協議会本部会」において、 <u>計画進捗状況報告などをもとに</u> 取り組みを検証し、 <u>施策健康づくりの推進に関する指導・助言</u> を行います。また同協議会で検討した内容を市民へ情報開示いたします。	(1)うるま市健康づくり推進協議会本部会「うるま市健康づくり推進協議会本部会」において、 <u>計画進捗状況などをもとに</u> 取り組みを検証し、 <u>施策推進に関する指導・助言</u> を行います。また同協議会で検討した内容を市民へ情報開示します。
6	P6. 10-14行	(2)うるま市健康づくり推進協議会幹事会「うるま市健康づくり推進協議会幹事会」において、構成メンバーを含む関係各課と連携し、計画の進捗状況の把握、「うるま市健康づくり推進協議会本部会」から指摘のあった事項の検討など「Plan(計画策定)→Do(実施)→Check(点検・評価)→Act(改善)」のマネジメントサイクルに基づき、計画の円滑な推進を図ります。	(2)うるま市健康づくり推進協議会幹事会……において、 <u>構成メンバーを含む関係各課と連携し、(←言わずもが)計画の進捗状況を把握しと検証を行い、「うるま市健康づくり推進協議会本部会」からの指導・助言指摘のあった事項の検討などを踏まえ、「Plan(計画策定)→Do(実施)→Check(点検・評価)→Act(改善)」のマネジメントサイクルに基づき、計画の円滑な推進を図ります。※</u> ※円滑な計画推進につとめます。又は、円滑に計画を推進します。	「うるま市健康づくり推進協議会 幹事会」において、計画の進捗状況の把握と検証を行い、「うるま市健康づくり推進協議会本部会」からの指導・助言を踏まえ、アセスメント(情報を収集・分析して課題把握)を行い「Plan(計画策定)→Do(実施)→Check(点検・評価)→Act(改善)」のマネジメントサイクルに基づき、円滑な計画推進に努めます。
7	P6. 16-19行	(3)うるま市健康づくり推進協議会部会「第2次健康うるま21」を効果的に推進していくことを目的に、妊娠期・乳幼児期部会、学童・思春期部会、青壮年期・高齢期部会の3部会を設置し、部会ごとの連絡会議を基本に、定期的に開催します。	3)うるま市健康づくり推進協議会部会「 <u>第2次健康うるま21</u> 」を効果的に推進するために、 <u>妊娠期・乳幼児期部会、学童・思春期部会、青壮年期・高齢期部会の3部会を設置し、部会ごとの連絡会議を基本に、定期的に開催します。</u>	「第2次健康うるま21」を効果的に推進するために、「妊娠期・乳幼児期部会」「学童・思春期部会」「青壮年期・高齢期部会」の3部会を設置し、部会ごとの連絡会議を定期的に開催します。
8	P6. 23-27行	(4)うるま市健康づくり推進協議会専門委員会うるま市健康づくり推進協議会専門委員会として、「うるま市CKD対策推進委員会」、「うるま市病診連携推進評価委員会」を設置し、市民へのCKD(慢性腎臓病)対策に関する啓発、CKDの早期発見に向けた健診の受診率向上対策、医療機関と行政及び地域の連携体制の構築などについて審議を行い、取り組みを推進します。	(4)うるま市健康づくり推進協議会専門委員会(主たる課題と対策に関する専門委員会であることを明確に) 本市の健康づくり大きな前進を図るためには、 <u>CKD(慢性腎臓病)対策に関する啓発、CKDの早期発見に向けた健診の受診率向上対策、医療機関と行政及び地域の連携体制の構築などを推進することが重要です。このため「うるま市CKD対策推進委員会」と「うるま市病診連携推進評価委員会」の専門委員会を設置し、取り組みを強化します。</u>	(4)うるま市健康づくり推進協議会専門委員会 人口透析患者の割合が全国と比べ約1.4倍多く、慢性腎臓病(CKD)が総医療費の約1割を占める本市では、新規透析導入者の減少が大きな課題です。かかりつけ医や腎臓専門医などを含め、関係機関とともにCKDの発症・重症化予防の総合的な取り組みを強化するために、うるま市健康づくり推進協議会 専門委員会として「うるま市CKD対策推進委員会」「うるま市CKD病診連携推進・評価委員会」を設置しCKD対策を推進していきます。
9	P6. 29行	(5)市民・関係機関・行政などの役割市民、学校、地域団体、職場、保健医療関係団体などの各主体が、行政が一体となって「健康うるま21」を推進します。	(5)市民……… 文章の頭出しが異なる(一文字ひっこめる) →市民、学校、地域団体、職場、保健医療関係団体…	(5)の文章⇒位置を修正します
10			※組織図の専門委員会の名称 ? 「うるま市病診連携推進評価委員会」 ⇔ 「CKD病診連携推進・評価委員会」	組織図の専門委員会の名称について⇒修正しました
11	P7・P8		※7と8ページの組織図を1ページにまとめる。	修正します

12		(5)計画の評価 本計画で示す目標を達成するためには、市民、関係団体等の理解と協力を得ながら	(6)計画の評価 (カッコ番号M稚貝。文章の頭出しひっこめる) →本計画で示す目標を達成するためには、市民、関係団体等の理解と協力を得ながら	(↓下記の通り訂正済です) (6)本計画で示す目標を達成するためには、市民及び関係団体等の理解と協力を得ながら、各種施策を推進することが重要です
13	P10 1-7行	第1章 うるま市の特徴 1. 人口 2015(平成27)年国勢調査における本市の総人口は118,125人、沖縄県内では那覇市、沖縄市に次ぐ人口規模となっています。15歳未満人口は20,632人(17.5%)、15～64歳人口が73,870人(62.5%)、65歳以上人口が23,623人(19.6%)となっています。年齢構成は、全国と比較して64歳未満人口の割合が高く、沖縄県とほぼ同様の割合となっています。	第1章うるま市の特徴 1. 人口 2015(平成27)年国勢調査における本市の総人口は118,125人、沖縄県内では那覇市、沖縄市に次ぐ3番目の人口規模で <u>なっています</u> 。15歳未満人口は20,632人(17.5%)、15～64歳人口が73,870人(62.5%)、65歳以上人口が23,623人(19.6%)となっています。年齢構成は、全国と比較して64歳未満人口の割合が高く、 <u>沖縄県に近似とほぼ同様の割合となっています</u> 。	(下記の通り修正しました) 2015(平成27)年国勢調査における本市の総人口は118,125人、沖縄県内では那覇市・沖縄市に次ぐ3番目の人口規模です。15歳未満人口は20,632人(17.5%)、15～64歳人口が73,870人(62.5%)、65歳以上人口が23,623人(20.0%)となっています。年齢構成は、全国と比較して65歳未満人口の割合が高く、沖縄県と近似しています。
14	P10 5行	2. 将来推計人口 「うるま市人口ビジョン(2016(平成28)年3月)」の本市の人口の将来展望では、	2. 将来推計人口 「うるま市人口ビジョン(2016(平成28)年3月)」の <u>本市の人口の将来展望</u> では、…。	(元データを人口ビジョン→第2次うるま市総合計画とし、文章を下記の通りに修正しています) 「第2次うるま市総合計画」では、2030年の122,752人をピークに減少へ転じ、2060年に114,248人が目標として示されています。
15	P10 18行	15歳未満人口が約20,000人強で推移する一方で、15～64歳人口は2015(平成27)年と比較して約10,000人の減少が見込まれています。65歳以上人口は2045年の35,171人をピークに減少へ転じると見込まれています。	15歳未満人口が約20,000人強で推移する一方で、…。 …年と比較して約10,000人の <u>減少が見込まれています</u> 。65歳以上人口は2045年の35,171人をピークに減少へ転じると見込まれています。	(下記の通り修正しています) 15歳未満人口及び15～64歳人口は減少を続ける一方で、65歳以上人口は2060年の36,694人に増加すると見込まれます。
16	P10 22行	ポイント低下、65歳以上人口は7.6ポイントの上昇となります。	ポイント低下、65歳以上人口は7.6ポイントの <u>上</u> 昇となります。	(グラフの変更に伴い文章削除)
17	P11 2～3行	2060年の将来推計人口を地区別にみると、具志川地区が74,081人(60.9%)、2石川地区が23,890人(8.9%)、勝連地区が12,828人(10.5%)、与那城地区が10,883人(8.9%)となっています。	11ページ 2060年 人口比 石川8.9%?	地区別人口割合は削除しました
18	P11 5行	2015(平成27)年と比較すると、具志川地区の人口割合が上昇し、勝連地区及び与那城地区の人口割合が低下していくものと見込まれています。	及び与那城地区の人口割合が低下していくものと見込まれています。	地区別人口割合は削除しました
19	P41. 1-12行	2. 生涯を通じた健康づくり 本計画では、市民一人ひとりが健康を獲得することに加え、次の世代の「健康の力」、未来の市民とまちの健康を育むことをめざします。 年代ごとに異なる健康課題、ライフステージと各分野の関係性を踏まえ、効果的かつ適切な支援に努めていきます。 妊娠期の母親と胎児の健康は、母親を中心に配偶者、地域社会などの支援が必要不可欠です。また乳幼児期の健やかな成長、学童思春期に自立心を育て健康的な生活習慣の確立を導いていくためには、保護者だけでなく地域、社会全体で支援していくことが必要です。これらを経ることで、青壮年期・高齢期という自身の健康管理と、次のうるま市民の健康につながり、さらに健康を支える環境(まちの健康)が市全域に広がると考えます。	2. 生涯を通じた健康づくり 本計画では、市民一人ひとりが健康を獲得することに加え、次の世代の「健康の力」、未来の市民とまちの健康を育むことをめざします。 年代ごとに異なる健康課題、ライフステージと各分野の関係性を踏まえ、効果的かつ適切な支援に努めていきます。 妊娠期の母親と胎児の健康は、母親を中心に配偶者、地域社会などの支援が(に)必要不可欠です。また乳幼児期の健やかな成長、学童思春期に自立心を育て健康的な生活習慣の確立を導いていくためには、保護者だけでなく地域、社会全体で支援していくことが必要です。こうした支援によりこれらを経ることで、青壮年期・高齢期という自身の健康管理と、次のうるま市民の健康につながり、さらに健康を支える環境(まちの健康)が市全域に広がることを企図していますものと考えます。	(修正後の文章 本計画では、市民一人ひとりが健康を獲得することに加え、次の世代の「健康の力」とまちの健康を育むことをめざします。年代ごとに異なる健康課題、ライフステージと各分野の関係性を踏まえ、効果的かつ適切な支援に努めていきます。妊娠期の母親と胎児の健康のためには、母親を中心に配偶者・地域社会などの支援が必要不可欠です。また乳幼児期の健やかな成長、学童思春期に自立心を育て健康的な生活習慣の確立を導くためには、保護者だけでなく地域・社会全体で支えることが必要です。こうした支援により、青壮年期・高齢期における自身の健康管理と、次世代のうるま市民の健康につながり、さらに健康を支える環境(まちの健康)が市全域に広がることを企図しています。
20	P42. 3-12行	【基本的な考え方】 がんは、日本人の死因の1位を占めており、今ではおよそ3人に1人はがんで亡くなっており、その割合は年々増加しています。 がんは、体の細胞の一部が変異して起こります。日常生活の中で刺激を受けダメージが重なったり大きくなったりすることで傷ついた細胞が、がん細胞に変異します。 がんは、早期発見が大切ですが、何よりもがん細胞を作らせないよう、日々の健康管理に気をつけることが必要です。がんの発症を高める要因には、がんに関連するウイルスへの感染等や、喫煙・過度な飲酒・運動不足などの生活習慣に関連するものもあります。 したがって、がんの発症や死亡を抑制するためには、がんについて理解を深め、各種がん検診を受診し、要精査者は確実に精密検査を受診することが必要です。	【基本的な考え方】の文章。以下12行目までの文字タイプが異なるように見えるが…?	(文字タイプ)修正しました
21	P43. 31行	子宮がん(16.5%)、肺がん(18.9%)が最も高くなっています。	子宮がん(16.5%)、肺がん(18.9%)が最も高 <u>く</u> なっています。	(下記の通り文章修正しました) 子宮がん(16.5%)、肺がん(18.9%)が高い割合です。
22	P44. 4行		以上(56.1%)と低い状況 <u>です</u> ある。……	(下記の文章へ修正しました) 65歳以上(56.1%)と低い状況 <u>です</u> 。

23	P46. 10行	・がんを予防するための生活習慣を推進していきます。	がんを予防するための生活習慣を推進していきます。	がんを予防するための生活習慣を推進します。
24	P46. 11行	・広報や市民健康講座等で正しい情報を発信していきます。	広報や市民健康講座等で正しい情報を発信していきます。	(下記の文章へ修正しました) 広報や健康講座等で正しい情報を発信します。
25	P47. 3行	脳血管疾患と心疾患を含む循環器疾患は、悪性新生物につぐ原因疾患となっています。	脳血管疾患と心疾患を含む循環器疾患は、悪性新生物につぐ原因疾患で <u>なっています</u> 。…	脳血管疾患と心疾患を含む循環器疾患は、悪性新生物に次ぐ死亡の原因疾患です。
26	P47. 5行	健康寿命の延伸を妨げる大きな要因ともなっています。	健康寿命の延伸を妨げる大きな要因で <u>ともなっています</u> 。	健康寿命の延伸を妨げる大きな要因でもあります。
27	P47. 8行	これらの危険因子を健診結果で複合的に見て、改善を図っていくことが重要です。	循環器疾患は、……見て、改善を <u>図る</u> ていくことが重要です。	(検討の結果、下記の文章に修正しました) これらの危険因子を健診結果で確認し、生活習慣の改善(減塩等)、生活習慣病(高血圧対策等)が重要となってきます。←圧の後に)を入れます
28			★計画書の現況や方針に展開されている文章について、表現上可能なところは下記のように短くしては!? 以降の文章にあります、ご検討ください。 ……となっています。(…となります) → ……です。 ……の充実を図ります。 → ……を充実します。 ……していきます。 → ……します。	表現を確認し、可能な部分については修正していきます。
29	P58. 5行	社会経済的活力と社会保障にも多大な影響を及ぼします。	活力と社会保障にも <u>多大</u> な影響を及ぼします。	活力や社会保障にも多大に影響します。
30	P60. 8行	【中略】実態も見られています。	…見られています。	修正しました
31	P61. 4行	(市民一人ひとりの取り組み) ・若いうちから定期的な健診受診を心がけ、血糖値の状態を把握し、糖尿病の早期発見・早期治療に努めます。	若いうちから…。(☞口語すぎる)若い時期から…。(※なかなか良い表現が浮かばない)	「若い時期から」と訂正しました
32	P62. 3-13行	慢性腎臓病(CKD)とは、1つの病気の名前ではなく、さまざまな腎臓病の総称です。腎臓の働きが、健康な人の60%以下に低下するか、あるいはタンパク尿が出るといった腎臓の異常が続く状態をいい、日本では、成人の8人に1人がCKDといわれています。病気が進行すると腎不全になる場合があり、体内か老廃物が除去できなくなって最終的には人工透析が必要になります。近年、CKDを発症し、重症化したために透析を開始される方々が年々増加しています。 また、CKD患者は、脳卒中、心筋梗塞などの心血管疾患発症の危険性が極めて高いこと、そして糖尿病、高血圧、動脈硬化症といった生活習慣病が関連したものが多くなっています。CKDは、透析の大きな危険因子であるだけでなく、心疾患の危険性も増やし、生活習慣病とも深く関わっています。しかし、医療の進歩より、生活習慣の改善や適切な治療を受けることで、発症や進行を減らすことができる疾患となっています。CKDを知っていただき、発症させない生活習慣作り、重症化させない取組が重要です。	慢性腎臓病(CKD)とは、 <u>腎臓に関するさまざまな疾病(or病気)の総称</u> です。腎臓の働きが、健康な人の60%以下に低下することか、あるいはタンパク尿が出るといった腎臓の…腎不全になる場合があり、 <u>体内か老廃物が除去できなくなって最終的には人工透析が必要</u> になります。近年、CKDを発症し、重症化したために透析を余儀なく開始される方々が…。また、CKD患者は、脳卒中、心筋梗塞などの心血管疾患発症の危険性が極めて高いこと、そして…生活習慣病を併発することが <u>関連したものが多くなっています</u> 。 <u>健康阻害の大きな危険因子であるCKDについては、透析の大きな危険因子であるだけでなく、心疾患の危険性も増やし、生活習慣病とも深く関わっています。しかし、医療の進歩より、生活習慣の改善や適切な治療を受けることで、発症や進行を抑制する減らすことができる疾患であることとなっています。CKDを知っていただき、…重要です。</u>	慢性腎臓病(CKD)とは、腎臓に関するさまざまな病気の総称です。腎臓の働きが、健康な人の60%以下に低下すること、あるいはタンパク尿が出るといった腎臓の異常が続く状態をいい、日本では成人の8人に1人がCKDといわれています。病気が進行すると腎不全になる恐れがあり、最終的には人工透析が必要になります。CKDを発症し重症化したために、透析開始を余儀なくされる方が年々増加しています。 またCKDは、脳卒中・心筋梗塞などの心血管疾患発症が極めて高いこと、そして糖尿病・高血圧・動脈硬化症等といった基礎疾患をもっていることが多いです。 健康阻害の大きな危険因子であるCKDの発症や進行を抑制するためには、市民が疾患について正しく理解し、生活習慣の改善や適切な治療を受けることが必要です。
33	P65. 4行	・若いうちから定期的な健診受診を心がけ、CKDの早期発見・早期治療に努めます。	若いうちから(←要検討)	「若い時期から」へ修正しました
34	P.65 12-13行	・健康診査結果から「CKD診療ガイド」等に基づき保健指導対象者の明確化を図り、医療機関と連携し、一人ひとりに応じた保健指導を実施します。	…保健指導対象者をの <u>明確にし化を図り</u> 、医療機関との連携のもと、…	「CKD診療ガイド」(※)等に基づき、健診結果から保健指導対象者を明確にし、医療機関との連携のもと、一人ひとりに応じた保健指導を実施します。
35	P65. 15-16行	・かかりつけ医及び腎臓診療医が連携し、CKD重症化防止の充実を図れるようCKD病診連携システムの構築を図ります。	CKD重症化防止策の <u>充実</u> にむけて、 <u>を図れるようCKD病診連携システムをの構築</u> しますを <u>図ります</u> 。	(検討し下記に修正しました) CKD重症化予防にむけて、かかりつけ医及び腎臓診療医が連携し、CKD病診連携を推進します。
36	P66 6-7行	・経年的にみると、1995(平成2007)年の男性17.0(全国1位)、女性4.5(全国1位)よりも低下しているものの、他の都道府県と比較して高いことが特徴となっています。	…、他の都道府県と比較して高いことが特徴で <u>す</u> となっています。	他の都道府県と比較して高いことが特徴です。
37	P66 9-10行	・うるま市と沖縄県のCOPD(慢性閉塞性肺疾患)の年齢調整死亡率を比較すると、沖縄県と比べて男女ともに優位に高い状況となっています。	…の年齢調整死亡率を比較すると、沖縄県と比べて男女ともに <u>優位に高い状況</u> にありますと <u>なっています</u> 。	(下記の通り修正しました) うるま市のCOPD(慢性閉塞性肺疾患)の標準化死亡比を見てみると、沖縄県に比べ男女ともに有意に高い状況です。

38	P67. 11行	・喫煙が健康へ及ぼす影響を知り、自分の健康を守るために行動します。	喫煙が健康へ与える及ぼす影響を知り、自分の健康を…。	(下記の通り修正しました) 喫煙及び受動喫煙が健康に与える影響について学習し、正しく理解します。
39			★…及ぼす影響…。 ⇄ …与える影響…。 (他にも出てきますので、表現のご検討を！)	「及ぼす⇄与える」修正します
40	P85 3-6行	健康は、社会経済的環境の影響を受けます。さらに地域のつながり(ソーシャルキャピタル)が健康に影響すること、健康との関連性が報告されています。	…。さらに地域のつながり(ソーシャルキャピタル)のあり方が健康に影響すること、健康との関連性が…。	健康は、社会経済的環境の影響を受けます。さらに地域のつながり(ソーシャルキャピタル)のあり方と、健康との関連性が報告されています。
41	P85. 10-11行	しづらい等の集団に健康問題が多いことも報告されており、これら集団へのアプローチが課題といえます。	…。または地理的に保健医療サービスへのアクセスが不便利しづらい等の要因を有する集団に健康問題が多いことも…。	保健医療サービスへのアクセスが不便等の要因を有する 集団に健康問題が多いことも報告されており、これら集団へのアプローチが課題といえます。
42	P85. 15行	時間的又は精神的にゆとりのある生活が困難な人や健康づくりに関心のない人な	時間的又は精神的にゆとりのある生活を送ることが困難な人や健康づくりに…。	時間的又は精神的にゆとりのある生活を送ることが困難な人や、健康づくりに無関心な人なども含めて、すべての市民が健康に関心を持ち、健康づくりに取り組むことができる社会環境の整備に努めます。
43	P86. 14-17行	現在、国では制度、分野ごとに『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を越えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、世代や分野を越えて『丸ごと』つながる地域共生社会の必要性が示されています。	現在、国では……の必要性が示されています 健康づくりに…生活にの困難を有する…。	(下記の文章に修正しました) *現在、国では制度・分野ごとに「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を越えて、地域の住民や多様な主体が『我が事』として参画し、世代や分野を越えて『丸ごと』つながる地域共生社会の必要性を示しています。 *健康づくりにおいては、経済面や精神面で生活に困難を有する人や健康に関心が低い人…
44	P88 12-13行	・MR(麻しん・風しん)2期の予防接種率は、2011よりも2016年の数値が低くなり、悪化となっています。	…。悪化しとなっています	(下記の文章に修正しました) *MR(麻しん・風しん)の予防接種率は2016(平成28)年本市予防接種実績において、1期95.6%、2期93.2%となり、沖縄県平均と比較すると1期・2期ともに上回っています。2011(平成23)年の本市1期92.9%、2期96.3%と比較すると、1期は増加、2期は減少しています。
45	P88. 18-19行	・朝食や仕上げみがき、起床時間や就寝時間、飲酒や喫煙の経験など、生活習慣に関する項目は、大部分が目標達成並びに改善となっています。	…に関する項目は、大部分が目標達成並びに改善を示しています	項目を分け、表現の仕方を変更しています。
46	P91 31行	また、予防接種によって予防可能な病気の予防対策、事故防止対策の強化など、	また、予防接種によって予防可能な病気の予防対策、…。	(下記の文章に修正しました) また、予防接種による感染症予防、事故防止対策の強化など、乳幼児の健やかな成長発達と、安心安全な子育てを支える地域・環境づくりに取り組みます。
47	P98 27行	・うるま市子どもの健康応援BOOK「だいすき」を子育て家庭に配布し、	句読点のダブリあり(…廃止し、…)	修正しました。